



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特^{じゅこう}別授業を受講して

表

11/21

特別授業を受けて、自分の原爆に対する
考えはあますぎたと思いました。

皮膚が爛れ落ちるなんてことは全く考えて
おらず、全身が赤くなるくらいの想像だった
からです。

また、地面が一瞬にして黒くこげ、建物も
炭になっていてびっくりしました。

誰もが自分の命や子供の命を守ろうとし
たけど、14万人もの人々が亡くなってしまい
原爆は怖いと思いました。

また、亡くならなかった人でも原爆病に
かかってしまい今でも苦しんでいると学び
改めて怖いと感じました。

自分は、社会の授業で原爆について習ひ
知っていることもあったけど知らなかった事
の方がとてもたくさんあったのでびっくりしました。
日本は平和主義にもとづき、もうこのようなことには
ならないと思うけど、大人になったら次の世代の人々
にも伝えていかなければならないと思いました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

今日の話を書いて、原爆や戦争は、私たちが想像するものとは全く違うんだと感じました。話をきいただけでも痛々しいのに、当時の人たちは、どれだけの苦しみにたえたのか、私たちには想像もできないと思います。れんとさんが言。たように、私が想像する戦争の様子は、当時の人たちにしてみれば、かわいものなんだと感じました。私は戦争を体験したことがないので、戦争について深く考えたことがありませんでした。でも、今日の話を書いて、今の私たちはとても幸せに暮らしているんだと改めて感じたし、この話は絶対に忘れてはいけないと思いました。今日書いた話は、とても怖かったし、現実こんなことがあったのかと、とても驚きました。この話を家族などにも話して、これから戦争について考えていきたいと思。たし、将来もし自分に子供ができた時にも、必ず伝えたいと思いました。戦争は、これから絶対あ。るはずの怖い物だと改めて思。ったし、原爆ドームなどにも、一度、行ってみたいと思いました。貴重なお話 ありがとうご。ざいました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

被爆者の方がみんなそろって手を斜め前に出して
よろよろと歩いているという姿がとても印象に
残ったし、怖いなと思ってしまいました。

助けたくて手を引っぱるけど、それが
よけいに原爆をばかしてしまっていること
をさせてしまうということがとても心苦しいなと思
います。女性をおぶった時に、生きているという感
覚がしてうれしかったとありましたが、生きてい
るというのはあたり前ではなく、すぐに消えてしま
うこともあるくらい弱いと知り、もっと生きてい
ることに感謝したいです。人に見えない人間
ではなく、人に似ているような存在かというの
はなかなか想像できません。それくらい悲惨
だったことが分かりました。被爆者の方が
原爆資料館にある、女性の模型を見て、
「きれいすぎる」とおっしゃったことや、もっとひどかったと思
われたことに對して、相当恐ろしかったのだと思いはした。
今、世界で戦争があるけど、誰にとってもつらい思
いしか残さないものなのだから一刻も早く平和がきて欲しいです。



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

候補には、た都市に京都も入って、京都は人間にと、重要な文化財、日本人の感情と考えると広島と長崎には、たけど、京都だけが日本人にと、た大邱ではなく、それとに良いところがあるから、考えられたいと思いました。太陽の表面温度よりも1000℃高い球体が上空600mにあるのは可しく怖いと思いました。夏でも今暑いし、料理のときにとんできた油もあついで、まらが3000℃、と考えられたいと思いました。やけどをしても必死に生きようとしていた人が、いと思うと、胸が痛くなりま。資料館の映像では焼けたた小に顔が少し見え、思わす目をつぶ、としました。あの写真でも目をつぶるくらいなのに、「まらいるまら」ということを聞いて、表現できないくらいの状況だ、たことがわかりました。義三さんの涙から今の私たらでは想像できないうは体験をしたたのたと感じたし、今から何十年も昔のことだけ、思い出可ということはとれほど印象的だ、たことがわかりました。話を語り継いでくたせることに感謝し、今こうせ、何気なく生活している



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

名前は裏面に記入してください

11/20

想像ができたし、するの怖かったです。
今の広島とはまったく比べものにはなっていないからのこと
が起こって、自分の考えが甘かったし、知らなかった
も同然のような気がしました。おしぞうさんは本当は
思い出したくないことだと思ったり、体験したくないなん
でも、と書いていたと思います。当時を思い出すと
その時の感覚がするんだと思いました。涙を流し
ながら話されていたし、戦後はどんどんやせていた
と、手紙に書かれていて怖くとか苦しくとか
つらいという感情ではない言葉では言い表せないような
気持ちになりました。人の形をなくしてしま
う原爆や人の感情や生活、家族などの全てを奪った戦争
はもう二度とあってはならないし、おしぞうさんもそう
願っているから伝えていこうとしていたんだと思いました。
なので今日の話を家族と話して戦争について考えたこと思ったし、
今はウクライナとロシアの戦争や紛争などの今の世界の状況に
も耳をかたむけています。支援や救助はできなくても、状況や
被害にあつた人々の思いを知ることにはできると思うので、今日の
思いを忘れず、世界の人々が心も身体も平和な世界に生きてほしいと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこウ

表

名前は裏面に記入してください

特別授業を聞いてみて、自分と想像していた、原爆の感じ
 ではなくて、人とは分らないほどのやけどをおいていたと聞いて、
 こわいなという気持ちだった。『助けて』という事に気づき、助けよう
 とすることを見え、自分だけが、人が分らないようなものを助けてや
 りは思われないし、こわいという気持ちが強いと思いました。戦争の
 話を聞くことが8月は多くて、『お〜』と言ってしまったり。でもか
 今日、少しだけ話を愛すると思いました。今の自分たちのためにみんながこ
 くろくた方の理解や、原爆のおそろしさをこれから知っていく子どもに伝える
 方がよいと思いました。戦争は、今も起っています。だからこそ、ニュース
 を見たり、本を読んだりして、自分達はどうしていけばいいのかを考
 慮していきることが大切なんだと授業を聞いて思いました。
 家族に授業の内容を話してみたり、学校の授業でも、その方
 な内容だった。自分のこととして考えたし、中学生だからこそこ
 ころがあると思います。ここからは、他人ごととして考えるのではなくて、
 自分ごととして考えていこうと思います。

戦争の映画とか、体験した人の話をもっと聞ける方がいいかなと
 戦争は、起きてはいいかないということか、分かってくるし、この話をこれから
 もずっと続ける必要があると分かりました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

私は、今日の話をきいて、原爆は自分の想像以上に
おそろしいもので、怖いだけの言葉じゃ言い表せない
ものだと思いました。今まで、テレビで見たり、授業で学
習したりはしていったけど、それだけでは全く足りな
いぐらいで、体験された本人の言葉からだと、すごく
生々しい想像までできてしまったりして、とても苦しいと
感じました。でも、体験してない自分もここまでおそ
ろしさを感じたから、被爆者の方や、その現場に救助に
行った方はどんなに苦しかったり、おそろしかったら
うらと想像できないぐらいです。映像で涙を流したり、
言葉を話ませながら語ってくれた、テレビで見ると、もう
絶対繰り返してはいけないうことだと強く感じたし、一生忘
れてはいけなうと思いました。今も毎日耳にするくらい
ニュースなどで戦争の話をしてるけど、もう簡単に考えら
れないし、もうやめてほしいという思いでいっぱいになり
ました。今はあたり前のように毎日楽しく過ごしてるけど、
昔も今もそれがみんなできていぬわけじゃないことも強く実感
しました。この2時間を通して、平和とは何か深く考えられ
る時間にできました。嘘のような話だけど、少し前に本当にあった話

特定非営利活動法人原爆先生 <http://hiroshima9.com> post@hiroshima9.com

なので、身近にこれからも考えていきたいです。



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

私は今まで原爆についてあまり深く自分で考えたことがありませんでした。今日特別授業を受講して、今まで知らなかったことを知れた。新しく考えたいです。私が一番心に残っているのは、被爆した人への姿です。実際には見ていないので現実がどうだったのかは分かりませんが、イラストの言葉を見て自分で想像してみてもひどいものだった。実際にはどれ程残酷で醜いものなのか考えたこともありませんでした。痛みも苦しみも私には分からないので、当時の人々がどんな思いだったのか分からない自分がくせしいです。また、原子爆弾についても知ろうと思ったことがなかった。授業で「焼けた顔」という単語が出てきたので、実際、どういう状態があったのか、どうしてそのようなことになったのか、理解せずにおわってしまっていました。1つの原子爆弾で1つの川の水がほとんど無くなってしまった。その一文だけで当時の被爆地がどれほどの熱だったか、「焼けた」はその影響であることもなんとなく感じました。実際に被爆した人への苦しみは私には分かりません。しかし、2ヶ月前の東京天空塾講話では、「戦争体験は絶対にしてはならない」とおっしゃっていました。苦しみは分からないとしても、この国が平和である限り、自分も原爆などの戦争体験はしてはならないかと思いましたが、私にできることは限られる。おろかなことですが、この先同じことが起らないように、この話を下の代の人達につないでいくことが大切なんじゃないかと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

名前は裏面に記入してください

今日の話を、自分が今知っている原爆の知識が、実際に体験した人とは、比べものにない程違うということを感じることができました。エノラケンは、11トンの核弾頭は、地面から、約600m上空で爆発し、太陽よりも熱くなり、町をおそって、爆心地では人がいた影しか残らなかったと聞き、原爆のおそろしさ、とより知ることができました。よしぞうさんがトラックで爆心地に向かうと、うには、手を前に出して、焼きたたえられている人がいた、と聞き、おそろしさを感じました。自分も資料館に行き、人形を見たことがありますが、その怖さで、小さかた頃の自分は、逃げてしまった覚えがあります。その人形でさえ、きれいなすきざしと、言葉がでていて、本当に現場では、みんななものをたのたなと思えました。自分は、これを受ける前に、色々調べてたりしてました。でも、それを本当に体験した人の声を聞いて、記録とは違う人の感じ方などを知らない事か、たくさん知ることができたので良かったです。他にも、衝撃波が2回もきたことや、エノラケンがどのおに逃げていったのか、など、知らない事、たくさん知ることができました。この話で、「2000歳の少年」が、何た、たのか分かることか、できた、広島で、何かあったのか、町の人か、どのおな状態、た、たのたを、よく知ることができた。自分は、この話を絶対に忘れないようにしたいし、今後の勉強や、活動に、活かしていきたいと思えました。今回は、本当にありがとうございました。



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

今日の話を受講して、考えるだけで少し気持ちが悪くなるような映像や写真を見て、今までの自分が優しかったのかと思っくらい予想外の叱責にやられました。今まで見てきた中で、実際に資料館に行った際こんな事があるのかあ、なんだとしか思わなかったけど体験談の中で、死かもたがるというすれ落ちるのを想像したり見たりするとこんなにも悲惨で恐怖であたのかかよく分かりました。映像の中で語った義三さんが頭を抱えて泣いていたけど思い出るとか語りたけど涙が出てくるというのは相当苦しくて僕にはどうも分かるものでないけど、こんな話が聞けていい体験をしたのかなと思っくたし、これからは、原爆をただ落としたという事実だけでなくそれがあって誰かどのようになっているのかをしっかりと絶対に忘れないようにしていきたいです。



名前は裏面に記入してください

じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

11/20

今日お話をきいたり動画を見たりして私はとても恐怖や悲しみを感じました。ほい
めの方で見た原爆を受けた人の形をした人々、絵だったのでもまだ見る事のできる表現だっ
たのかもしれないけどとても怖いと思いました。やけどをしていても赤くはれている
所くらいしか知らないのに焼けただれて皮膚がドロドロになっている所、車に乗
せようとしてつかんだ腕についたもの。日に焼けてしまっただけでも痛いのに焼け
ただれ地面に皮膚が落ちるような状態の人ほどおれほどの苦痛なのか痛いとすら
い表すこともできない苦痛なのではないかというのを感じて見ていてとても苦しく
なりました書いてる今もつらい気持ちになり涙がでそうです。救いたいのになんか救えない
救われなかったのにそう思う暇もなくせくならなれた方とても救えきれないくら
いいらっしやると思います。気付かないまま死んでいくのがやけどに苦しんで死ん
でいくのが原爆の後遺症を残し生きていくのかどの生き方が幸せなのか分かりま
せん、たぶんそこにたぐさんの幸せはないのだと思いました。私達は戦争も原爆
も受けた事のない世代です。学校の授業でこんな事があった。他の方々からこんなこと
があった。祖父や祖母からこんな経験をしたときとても経験したことのない私達では
池田さんのようにおんなに感情を込め話すことはできません。私は原爆ドームの人形を見
て「綺麗すぎる」と思う事はできませんでした。これから私達が年を重ねていけばいく
ほどこういったお話をきくことができないと思います。私達が少しでもそういった経験
や祖先の人々の話を伝えていきたいと思っています。天国があるのが分かりませんが原爆を受けた
方々が安んじて眠るような平和な世界を創っていきたいです。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

名前は裏面に記入してください

今日原爆先生の話を聞いて、おかげで原爆については授業や色々な人から話を聞いて、知っているつもりでした。私の想像していたものとは、はるかに違って、正直、写真を見た時、目をくらしてしまいました。この話を聞く前に、被爆した人が、熱くて皆川の中に入りに行ったという話を聞いていました。それくらいしか知らず、もっと詳しく知る必要がなかった。残酷さもわかりました。義三さんが話している動画を見た時は、なにもいえない気持ちになりました。話している途中に思い出した涙を拭かしている場面がありました。実際に体験した人は私たちに伝えただけで、苦しい思いをして語り、それを知っているだけだと感じました。思い出す事はほんとに辛いことだし、思い出したことも辛いことを感じると思います。それだけでも私たちに伝えようとしてくれているので、次は、私たちが下の代の子に伝えたいと思ったり、原爆が来たという事実を、絶対に忘れずにはいかなければと思います。100分間と長いように、短い時間でしたか、私たちがのために、説明してくださいました。ありがとうございました。死ななくていいです。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅうこう

表

名前は裏面に記入してください

夏ごろに国語の授業で原爆のことについて書かれた詩を勉強し、
そのときに自分で原爆について考えたつもりではあったけれど、実際に
体験したことについて聞いてみたことは、想像よりもずっとひどくて、衝撃を
受けました。一瞬の間に街が消えて、何万人もの人が亡くなり、その後
大勢の人が苦しみを続けるようなことはもう二度とあってはならないことだと
思いました。私の覚えちがいかもしれませんが、祖父から高山にも原爆の
どろが配られたという話を聞いた記憶があって、そのときは特に深くは
考えなかったけれど、今日の話を聞いてからだと、たまたま選ばれるだけで
私の好きな街が全部なくなって今私もここにいなかったかもしれないと思っ
てすごく怖いです。それは当時の広島や長崎でも同じで、戦争で勝つことだけのため
に候補に選ばれて、当たり前な日常が今日もあると思っていた何の罪もな
い人たちの命が奪われ、大事なものが全部なくなっていったんだと思うと、決して
他人事ではないと思いました。さらに、現在、世界には核兵器が多く存在
している以上、広島や長崎であった出来事はいつ繰り返されてもおかし
くない状況でもあります。だから、私も今日聞いた話を家族など
他の人にも伝えていこうにしたいです。そして、核兵器のない世界に
なるよう、自分ができること
探していきたいです。



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

今日の孫学習を通して、原子爆弾の被爆というものは想像を絶するものだ
感じました。原子爆弾はその時だけでなく、今も尚 原爆症という病気に
苦しめられている人がいて、実際に被害に遭っている人にまで
被害を及ぼしていて、残酷なものだと感じました。

屋外の人には、約 3000℃ の熱線を浴び、一瞬で溶けて
しまつと聞いたときは、よく考えられませんでした。鉄の融点は
約 1500℃ とおぼしやうでいて、2倍もの温度を浴びると考えると、
恐ろしくてTはなりませんでした。

それだけでなく、火傷を負い、皮膚がボロボロになるとい
い、「ズルッ」という音を聞いたときは、とても怖かったです。

僕は、今日の原爆先生の特別授業と、修学旅行での東京大空襲の
話を聞き、「平和」というものはどんなものなのか、や
「戦争」とは、どんなものなのか、を学びました。今、世界では戦争
が色んな地域で起こっていて、平和とは言えないと思います。
だからといって戦争がたかたかたからといって「平和だ」とも言いか
ねないと思います。

「平和」と言いかねるうちに、ゴエリがトラブルや問題が起た
ら、自分だけで考えず、周りの人とも考えをぶつけ合い、少しでも
「平和」に向けて生きていこうと思っています。



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

今更、「原爆」「戦争」「平和」というものを授業が習ったし、テレビで見たりは
 して来たけど、結局他人事として考えてしまっていて、「その人はさあ、どうよ、と
 いうことだ」と。今回池田さんのお話を聞いて、改めて今の私たちが普通に食
 事をしている、学校に行っている、普通の生活ができていくのは当たり前じゃない
 という事をすごく実感しました。特に私たちが来た、印象に残った所は遺体
 を背負ったときと、生きてる人を背負った時のちがいを、義三さんが「天国と
 地獄ほびのちがいを」と表現した所が、それほどまでに、遺体、というものは生き
 ていた感觸が強いものなのか、それか山積みに残っている状況の中で、私に耐え
 られるのか、と考えてしまいました。そして無理だと思える。そして、最後、義三さん
 涙を流しながら広島を訪れた時の事を語る映像では、「きれいすぎる」という
 一言が写真、文章、模型などは伝わりがたいほどの原爆の悲惨な状態が、当
 時(1945)の義三さんの目の前に広がっていたことと、感じました。私は、自分
 が何人かに依存して生きる人間だと思ってしまう。それは私。でも今、原爆の
 被害にあつたら、もし死なずに生き残ったら、友達や家族が「突然いなくなつたら」
 と考えると、可哀想なことになる。だから、「平和」というものに對し、私ほどの
 ように向き合っていければいいのか、もっと真剣に考えよう、とすごく感じました。私
 は今更に関わってきた人とのつながりを大切に。これからの人生、FIIさんらしい
 笑顔に生きよう、また、原爆の被害、恐ろしいことを忘れ去れないように語りつづ
 けていきます。